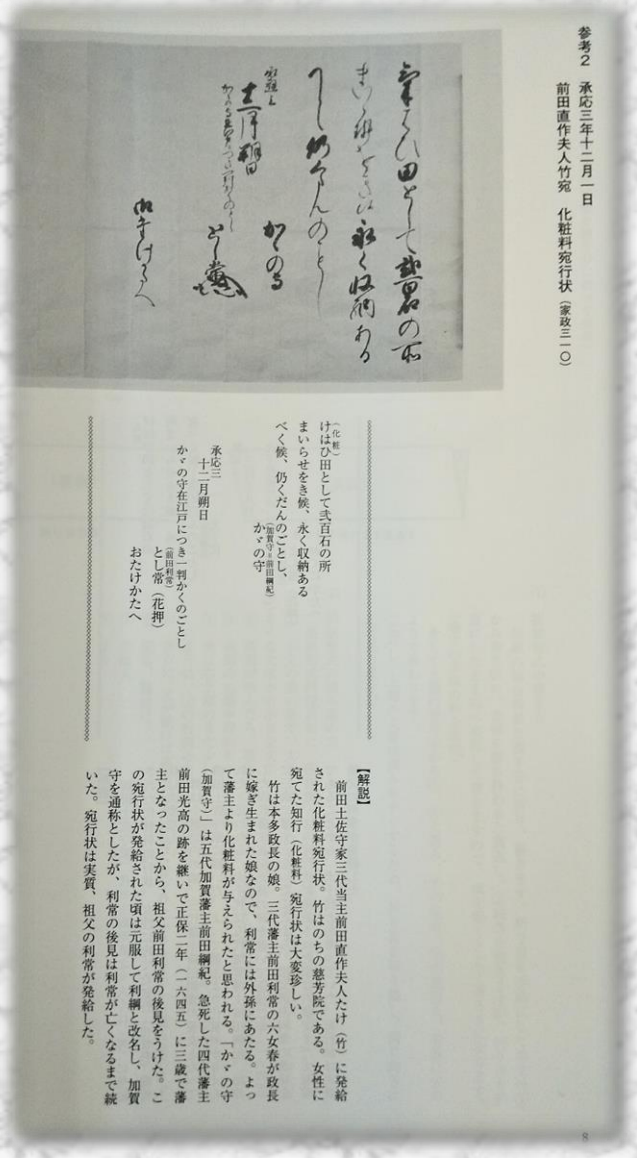
前田土佐守家資料館所蔵
慈芳院の書状



参考2　承応三年十二月一日
前田直作夫人竹宛　化粧料宛行状（家政三〇）

（化粧）
けはひ田として弐百石の所
まいらせをき候、永く収納ある
べく候、仍くだんのごとし、
（加賀守＝前田綱紀）
かゞの守

承応三
十二月朔日
かゞの守在江戸につき一判かくのごとし
（前田利常）
とし常（花押）
おたけかたへ

【解説】
前田土佐守家三代当主前田直作夫人たけ（竹）に発給された化粧料宛行状。竹はのちの慈芳院である。女性に宛てた知行（化粧料）宛行状は大変珍しい。
竹は本多政長の娘。三代藩主前田利常の六女春が政長に嫁ぎ生まれた娘なので、利常には外孫にあたる。よって藩主より化粧料が与えられたと思われる。「かゞの守（加賀守）」は五代加賀藩主前田綱紀。急死した四代藩主前田光高の跡を継いで正保二年（一六四五）に三歳で藩主となったことから、祖父前田利常の後見をうけた。この宛行状が発給された頃は元服して利綱と改名し、加賀守を通称としたが、利常の後見は利常が亡くなるまで続いた。宛行状は実質、祖父の利常が発給した。

8

〝なんでも鑑定団〟の古文書鑑定でおなじみの増田孝先生が、「女筆文書を学ぶには大変良い本です。」と推薦された本です。慈芳院は三代前田土佐守家当主前田直作（なおなり）夫人竹で、三代加賀藩主前田利常の外孫にあたる。

この図録の編集に協力された会員の新井弘子先生は「慈芳院はさすが前田家の姫でして、お輿入れの折二百石の化粧田が宛がわれ何一つ不自由なく過ごされたことでしょうが、自分の死後はそれを前田家に御返しされるとの遺言状があり、私はそれに大変感動しこの書物を執筆しました」とおっしゃっています。